

新 潮

校訓

郷土を愛し
明るく素直で
たくましく

文責：校長 川内康範

去年に引き続き……

夏休みの宿題です。

「大人へのインタビュー」

【目的】

○大人が人生の分岐点で何を考え、どのような道を選択してこられたか、聞き取りを行い、人生の先輩の生き方を知る。

○自分自身の個性や適性を見つめ、将来の生き方について考える。

【インタビューの例】

- ・ 進路選択をしたときに考えたこと
- ・ 今までに関わった仕事、思い出
- ・ この仕事をやっている理由、いきさつ
- ・ 仕事の楽しさ・やりがい・きついこと
- ・ 大切にしていること
- ・ 大島のこれからについて
- ・ 中学生へのメッセージ など

2・3年生には去年の夏休みも同じ宿題を出しましたね。去年のみなさんのレポートを読み返してみると、母親、祖母、父親、看護師さんなどにインタビューをして、進路などについて深く考え

ることができていました。その時の感想文を紹介しましょう。

・「海に関わる仕事は、釣れたり釣れなかったり、波が高かったり、自然に左右されやすく、大変な仕事だけど、そこで働いている方々の根気強さはすごいと思いました。」

・「いつもは親子で会話をしないので、今回のインタビューで会話ができたのでよかったです。」

1年生にとっては戸惑いもあるかもしれませんが、頑張ってみてください。中学生の皆さんには、終業式の日プリントを渡し、改めて説明をします。

次の文章は、去年7月の「学校だより」の内容です。

今の中学生には自分をしっかり見つめさせ、この先の自分の生き方についても考えさせていきたいと思っています。

生きていく上で私たちは、学校や職業の選択だけでなく、様々な選択をします。だれどこに住んで、どんな活動をするのか。その後も出会いや様々な条件によっていろいろな選択をします。親と一緒に住むのか。離れるのか。家の仕事を手伝うのか。大島で仕事をするのか。何年間かは島外で働いて、その後大島に戻る計画にするか。などなど、それらのすべてが選択であり自分の生き方です。

これからの中学生には自分の生き方について考える習慣を身につけてほしいと思います。そこで、まずはいろいろな人の生き方から学んでほしいのです。

ところで、保護者の皆さんは、親として子ども

の人生についての思い・願いを語られることはありますか。

私は先日、息子に「将来はどこに住んでもいいとやる？」と言われ、うーんと考え込んでしまいました。確かに、上の子どもが就職する時も就職さえしてくればという思いが大きかったせいか、自宅から通ってほしいなどとは言わなかったように思います。自分がやりたいことを楽しく充実感をもって働いてくれることが一番。でも、二番目はやはり近くに住んでいてほしいと思います。どこに住むという話は今までしたことがなかったなあと改めて思いました。

今回、子どもたちに見出しのような夏休みの宿題を出しています。ご家族の誰かがインタビューを受けることになるかもしれませんが、その際は子どもの将来のためと思ってご協力いただければ幸いです。そして、親としての思いを存分に語ってみられてはいかがでしょうか。

私の思いは1年前と同じです。よろしくお願いします。

